

2019年度第2回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 牛若丸ジャンプステークス

牛若丸（うしわかまる）は、源平合戦で大活躍した源氏の武将、源義経の幼名。義経は、壇ノ浦の戦いで、敵将平教経と遭遇した際に、舟と舟との間を飛び移ったとされ、その距離が舟八艘分もあったことから「八艘飛び」の名で伝わっている。

○ 梅花賞

梅花（ばいか）は、梅の花のこと。梅はバラ科の落葉小高木。2～3月頃に開花し、強い香りを放つ。北野天満宮の境内神域には約50種、1500本の梅の木があり、この時期の梅苑では白梅、紅梅、一重、八重と色とりどりに咲く梅を目にすることができる。花言葉は「高潔」「忠実」。

○ 木津川特別

木津川（きづがわ）は、京都府南部を流れ、八幡市で淀川に注ぐ一級河川。三重県の青山高原に源を発し、柘植川、服部川、名張川の水を集める。

○ 橿原ステークス

橿原（かしはら）は、奈良県中西部の市。中世には、市の中心部が寺内町として発展した。神武天皇の皇居は、畝傍（うねび）橿原宮と呼ばれ、現在の橿原神宮は、その皇居跡と推定される地に建てられた。

<第2日>

○ 若菜賞

若菜（わかな）は、早春に萌え出て食用となる草の総称。宮中において、邪気を払い万病を除くという七種の野草を摘み、内膳司から羹（あつもの）にして献上した行事が、民間に広がって七草の行事になった。

○ 飛鳥ステークス

飛鳥（あすか）は、奈良県高市郡明日香村一帯の地域。6世紀末から7世紀にかけて、この地に天皇の宮が多く所在した。この時代を飛鳥時代と呼び、同地域には、当時を偲ぶ飛鳥寺や高松塚古墳などの史跡がある。

○ シルクロードステークス（GⅢ）

本競走は、平成 8 年に創設された重賞競走。12 年に高松宮記念が 3 月に移設されたことに伴い、本競走の実施時期も従来の 4 月から現在の時期に変更となった。また、14 年より負担重量が別定からハンデキャップへ変更となっている。

シルクロード（Silk Road）は、中央アジアを横断する古代の東西交通路の名称。名は、絹が中国からこの道を通って西方に運ばれたことに由来する。奈良の正倉院には、シルクロードを通じて伝わったとされる中国製やペルシア製の宝物が数多く現存している。

<第 3 日>

○ 乙訓特別

乙訓（おとくに）は、京都府南部の地名。かつては現在の長岡京市、向日市などを含む桂川の西岸地域を指した。『日本書紀』には、弟国（おとくに）とも記載されている。清らかな竹林が広がっており「かぐや姫」伝説発祥の地として伝わっている。

○ エルフィンステークス（L）

エルフィン（Elfin）は、「小さい妖精のような」を意味する英語。チュートン民話において、魔力をもった妖精は、森や野に住み、いたずら好きとされている。

○ アルデバランステークス

アルデバラン（Aldebaran）は、おうし座の一等星。アラビア語で「後に続くもの」を意味する「アル・ダバラン」に由来する。カペラ・ポルックス・プロキオン・シリウス・リゲルと共に「冬のダイヤモンド」を構成している。

<第 4 日>

○ 稲荷特別

稲荷（いなり）は、京都市伏見区の山。東山連峰の南端に位置する。西麓には、秦伊呂具（はたのいろぐ）が鎮守神として創建したとされる伏見稲荷大社があり、山麓から山頂まで千本鳥居が続いている。同大社は、全国の稲荷神社の総本社として信仰を集めている。

○ 山城ステークス

山城（やましる）は、五畿内のひとつで、京都府南部にあたる旧国名。古くは「山代」と書いたが、山河が襟帯しており、城を成す形をしていることから、延暦 13 年（794）の平安京遷都時に改字されたとされている。

○ きさらぎ賞（NHK賞）（GⅢ）

本競走は、昭和 36 年に創設された 3 歳馬の重賞競走。当初は中京競馬場で実施されていたが、62 年から京都競馬場に舞台を移し距離も創設時の 1800m から 2000m へ延伸された。その後、同競馬場 1800m コースの新設により平成 3 年から再び 1800m に短縮され、現在に至る。

きさらぎ（如月）は、陰暦で 2 月の異称。

NHK は、日本放送協会の略称。本競走は、同協会より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 5 日>

○ こぶし賞

こぶしは、モクレン科の落葉高木。名は、つぼみが握りこぶしに似ていること、果実に握りこぶし状の凹凸があることから付けられた。花言葉は「友愛」「歓迎」。

○ 琵琶湖特別

琵琶湖（びわこ）は、滋賀県の中央部を占める日本最大の湖。古くは淡海・近江海・鴈（に）お）の海などとも呼ばれていた。名は、形状が楽器の琵琶に似ていることに由来する。

○ 洛陽ステーキス（L）

洛陽（らくよう）は、平安京の左京の称。右京を長安と称するのに対する。また、京都の異称。名は、後漢など中国の王朝の首都であった洛陽に由来する。

<第 6 日>

○ 松籟ステーキス

松籟（しょうらい）は、松の梢に吹く風の音のこと。松風、松韻とも言う。松は、古くから神の宿り、節操や長寿を象徴する神聖な木として尊ばれている。

○ 北山ステーキス

北山（きたやま）は、京都北方の船岡山・衣笠山・岩倉山などの諸山の総称。また、京都市北部の通りの名。室町幕府の 3 代将軍足利義満が山荘を営んだ京都北山にちなんで、当時の文化を北山文化と呼ぶ。

○ 農林水産省賞典京都記念（GⅡ）

本競走は、昭和 17 年に創設された重賞競走。25 年までは 3000m～3500m、27 年以降は 2000m～2200m で実施されていたが、44 年の第 47 回から 2400m に延伸された。また、毎年春・秋の年 2 回実施されていたが、59 年より年 1 回となり、平成 6 年には距離が 2200 m、負担重量がハンデキャップから別定へと変更された。

<第 7 日>

○ つばき賞

つばきは、ツバキ科の常緑高木。関東以北では海岸地帯に点在し、ヤブツバキとも呼ばれる。日本では古代より植栽されており、観賞花として品種改良が行われた。花言葉は「完全な愛」「誇り」。

○ 河原町ステークス

河原町（かわらまち）は、京都市中央部を流れる鴨川西岸沿いに発展している通りおよびその周辺地域。安土桃山時代に豊臣秀吉が築いた御土居（京都を囲んだ堀）の外にある。河原町三条から四条河原町にかけては繁華街となっている。

○ 京都牝馬ステークス（GⅢ）

本競走は、3 歳以上の牝馬限定競走として昭和 41 年に創設された重賞競走。当初は 2000 m で実施されていたが、43 年からは 1600m に（54 年、59 年を除く）、平成 28 年より 1400 m に短縮され、現在に至る。また、平成 13 年に『京都牝馬特別』から『京都牝馬ステークス』へ改称された。

<第 8 日>

○ 春日特別

春日（かすが）は、奈良市およびその周辺地域。特に、奈良市春日野町にある春日大社の付近を指す。平成 10 年に「古都奈良の文化財」のひとつとして世界遺産に登録された。

○ 斑鳩ステークス

斑鳩（いかるが）は、奈良県北西部、生駒郡の町。名は、聖徳太子が造営した斑鳩宮跡に由来する。法隆寺・中宮寺・法輪寺などの社寺があり、仏教の中心地である。町内西部の竜田川流域は県立竜田公園として整備され、紅葉の名所として知られている。

○ 大和ステークス

大和（やまと）は、奈良県全域を占める旧国名。五畿内のひとつで、飛鳥京・藤原京・平城京などの都が置かれ、室町時代初期までは寺社が大きな勢力を誇っていた。明治 9 年に堺県（現在の大阪府堺市）と合併し、20 年に奈良県として分離した。また、日本の異称としても用いられる。